

1 学校教育目標	一人一人の個性を大切にし、主体的に生きる人間の育成に努める。 1 真理の探究・・・創造力豊かな自ら学ぶ生徒の育成      2 人格の陶冶・・・他を思いやる心豊かな生徒の育成 3 体力の増進・・・心身ともに健康でたくましい生徒の育成					
2 現状の分析	三部制・単位制の特色を生かし、学び直しができ、生徒の個性や進路にあった授業選択ができる学校づくりに対して、保護者の9割以上が肯定的に回答している。生徒も、「入学して良かった・ほぼ良かった」という回答が昨年に引き続き85%以上であり、おおむね入学の満足度は高い。しかし、これらの結果は入学後、ほぼ順調に学校生活を続けている生徒とその保護者の回答であり、その背後には残念ながら退学したり、休学した多数の生徒の声が入っていないことを忘れてはいけない。 ここ数年の傾向として、中学校時に不登校を経験している生徒や、発達障がいの診断がある生徒、または、その疑いのある生徒が増えている。それ故、多数の学校不適応生徒一人一人の自己肯定感を高め卒業後の社会生活につながる学力の定着をさせることが重要であると考え、平成27年度まで取り組んだステップアップカリキュラム研究指定事業を基にした授業のユニバーサルデザイン化に重点をおいた授業改善に全校体制で取り組んでいる。また、ソーシャルスキルの向上を図るためにSSTの授業を計画的に行うようにしている。服装や頭髪の乱れは改善されつつあるが、依然として学ぶ意欲や進路に対する意識、集団に対する帰属意識の低い生徒が見られる。					
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な学習の定着を図り、学ぶ意欲を育て、生徒一人一人の進路実現を果たすこと。</li> <li>・生徒に達成感や充実感、自己肯定感を与える指導と支援を行うこと。</li> <li>・生徒のソーシャルスキルを高めると共に幅広い社会性を養うこと。</li> </ul>					
4 今年度の具体的な重点目標	1 基礎学力の確実な定着をめざす。自ら学ぶ主体的な学習態度と、進んで自らの人生を切り拓く意欲的な生活態度の育成に努める。基礎学力に加え進路決定力の育成のための校内体制づくりを継続的課題とする。 2 社会性を養う。個を大切にしている指導を基に、モラル・マナーを尊重する態度を培い、自主・自立・自律の精神を養う。 3 キャリア支援の充実を図る。「総合的な学習の時間」を通して、望ましい勤労観・職業観と社会性を育成し、適切な進路選択ができる資質を養う。また、ゼミ活動や学校行事、部活動を通して、連帯感や帰属意識の向上を図る。					
年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
教 務	①基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成をめざした学習指導の推進	①年2回の公開授業週間を利用した教材研究・教科会での点検 ① 考査情報分析(欠点数の推移)	①研究推進委員会によるテーマをもとに年1回の研究授業をおこなった。授業者はもとより、分かりやすい授業という点で、生徒にも良い効果が出ている。時間割上やむを得ないが教科内で参観できないなどが課題である。	B	▲昨年度までの研究指定が終わり取り組みが終了した感がある。維持している部分もあるが、今後の本校の在り方を踏まえながら新たな取り組みができると良い。	B
	②特色と魅力ある三部制・単位制・少人数授業の効果的実践	②生徒及び保護者、公開授業参観者へのアンケート ②年2回「授業に関するアンケート」	②保護者・公開授業参観者アンケートについては本校教育に対する満足度は高いものであった。少人数ならではの教育的な効果を実感された感想が多く見られた。反面来校者から、授業に向かう生徒の姿勢を問う意見もいたたく場面もあった。	A	▲授業に対するマナーの悪さが目立った。安心して学べる学校になるべく指導方法の検討が必要である。 ▲業務の引き継ぎなど分掌内外でうまく連携の取れない場面がややあった。分掌会などを定期的にもつ必要がある。	
	③教員の資質を高める研修の推進	③教科会での現状分析 ③職員研修会 ③年2回「授業に関するアンケート」	③昨年度までの研究推進委員会に代わる職員研修の核となる推進組織が必要である。	B		

進路	①CT（チャレンジタイム）を活用してキャリア教育を実施する	① 生徒及び保護者等のアンケート	①今年度より1年次生全員に職業研究とその発表を行わせ、2年次にはキャリアガイダンス実施した。また、3年次は進路決定後に社会人講座を実施した。	B	○各年次主導の進路活動は好評で、進路を考える良い機会となった。 ○社会人講座の人選は概ね良好であった。	B
	②生徒一人一人に合った適切な進学、就職指導を実施する	②進路実現状況 ① 就職内定率	②2年次生の全員に対し、年末から面接指導を行った。また、3年次生に対しては、進学希望者を含め例年になく力を入れた。3年次から開始する志望理由書指導を2年次の2月から前倒しで開催した。	B	○キャリア教育アドバイザーの積極的できめ細かい支援があった。 ▲3年次の夏の3者懇談で急遽就職希望に変える生徒が多く、対応に苦慮した。	
	③進路指導に関わる情報を収集し、教科・年次・分掌等へ発信することで学校と外部のパイプ役を務める	② 生徒及び保護者等のアンケート	③キャリア教育の全体計画及び年間指導計画を作成し、それに基づき、各教科や年次、分掌と連携し、キャリア教育を実践した。	B	▲面接指導の無断欠席は減少傾向にあるが、時間、約束を守るという最低限のルールを身に付けさせたい。 ▲キャリア教育の計画は作成し、実践したものの連携は十分でない。	
生徒指導	①基本的な生活習慣・規範意識の育成 ・社会生活の基盤である生活習慣の確立と、高校生として守るべきルールやマナーを理解し遵守する姿勢を育成する。また、身だしなみを整えさせる。	①生徒・保護者アンケート ①問題行動の状況	①機会あるごとに、集会等で生活指導を実施した。校外指導（土岐市駅前を重点的）も実施でき問題行動は年度のスタート時より減少した。 ①身だしなみについても機会があるごとに話をした結果、身だしなみを整えることを意識できる生徒が増加した。	B	○校内、校外とも問題行動の件数は徐々に減少し、生徒の規範意識は少しずつ育っている。	B
	②豊かな人間性の育成 ・内面からの変化を求め、自ら進んで取り組む事のできる自己指導能力の育成を図る。	②生徒・保護者アンケート ②問題行動の状況	②生徒会活動を活発化して、挨拶運動を展開させるなど、ルールやマナーアップを図れるよう仕向けることができた。	B	○すれ違い時などに挨拶ができる生徒が増えた。 ▲不登校経験生徒が学び直しを求めて入学してくるが、うまく人間関係を築くことができなかつたり、あるきっかけで再び不登校となつたり、進路変更するケースが目立った。	
	③全校体制と共通行動の確立 ・年次を中心とした指導体制の確立と、全職員の共通理解・統一行動を図る。	③年次会等での情報交換 ③主事会、生徒指導委員会等での情報交換	③生徒の状況を把握でき、問題行動やいじめに発展するような事案については早期に対応することができた。	B	○ボランティア活動への積極的な参加がみられた。	
	④安全・安心な学校作り ・自分とは違う個性を認め、お互いを尊重できる生徒の育成を図るとともに、家庭や関係諸機関との連携を深め、安心・安全な学校づくりに努める。	④生徒の学校生活アンケート ④関係諸機関との連携	④毎日定期的に校内巡回指導を実施できた。 ④学校生活アンケートから問題を抱える生徒については個別に対応できた。	B	▲集会時の生徒の態度（人の話を聞く姿勢）などの指導が必要である。 ▲生活する中で、モラルやマナー・ルールを尊重した行動ができない生徒が多くいた。	

					▲発達障がいと疑われるような生徒に対する対応のしかたについて、全職員の共通理解と統一行動が図れていない。	
教育相談	①生徒の人権を守り、それぞれが描く将来の自己実現に向け、安心して学び、豊かな高校生活を享受できる環境を築き、守る	①担任と生徒との面談日の設定 ①保護者・生徒と教育相談担当者との個別の面談 ①生活アンケート調査の実施分析	①春と秋の2回にわたって、担任と生徒との面談の設定を行うことができた。 ①生徒や保護者の希望に応じて面談を実施することができた。 ①7月、10月、1月の3回にわたって生活アンケートを実施し、生徒がいじめについて悩んでいないかどうかの把握に努めた。気になる記述に対しては、担任または教育相談係が面談を行い、事態の把握・対応を行った。	B	○放課後に生徒との時間をとりづらいため、面談は担任が生徒とじっくりと話す貴重な機会となり、生徒理解の一助となった。 ○生活アンケートを年2回から3回に増やし実施した。結果をグラフ化し分析を行った。 ○カウンセリング利用者の担任にカウンセラーからの助言をしていただく機会を設けた。 ▲カウンセリングへの敷居が高いと感じている生徒が多いので、生徒へのカウンセラーの紹介方法などを工夫したい。 ○生徒の支援に必要な教育相談の基本を学ぶことができた。 ▲もう少し実施時期が早いと、より生徒対応に生かすことができた。	B
	②生徒の状況を把握し、家庭や外部機関と連携・協力して、最も適切な援助ができる方策を考える	②1年次でのテストバッテリーM2検査の実施・分析 ②カウンセリングの実施	②年次会でテストバッテリーM2の分析結果について情報を共有することができた。 ②月1回の相談部だよりにより、カウンセリングの日程について周知できた。また、定期的にカウンセリングを行うことができた。	B		
	③教員の共通理解を図り、全職員が同じ方針の下で生徒の援助ができるよう、資質の向上に向けた研修を実施する	③職員教育相談研修の実施	③1月に職員教育相談研修会を実施した。	B		
保健厚生	①健康の保持増進 ・こころと体の健康の保持増進に配慮し、規則正しい生活が送られるようにする ・安全で健康的な食について考えさせるとともに、食事のマナーを身に付けさせる	①感染症発生状況 ①検査・検診結果 ①保健室利用状況データ ①体測定結果 ①食育・歯科アンケート ①食育指導	①毎月の保健だより発行に加え、換気・咳エチケット等の疾病予防の呼びかけを実施した。 ①健康診断未受診者0を目指し、指導・呼びかけを行った。(休退学除く) ①保健室利用者771件(昨年より1.2倍)全年次において肥満の割合が高い。 ①2年間歯科指導を強化した。全職員で歯科教育教材を作成した。 ①毎日の給食時間を利用し、食育・食事マナーを指導した。	A	○感染症予防の啓発活動を実施し、感染症の蔓延を予防した。 ○健康診断未受診者0達成 ▲頭痛での来室が多い。スマホやゲームの使用による睡眠不足が目立った。生徒指導と連携したい。 ▲肥満が多い。また、運動不足が原因であるケガが多いため、生活習慣(食事・運動)を改善させたい。 ○歯科に対する意識向上。	
	②安全教育の充実 ・ルールやマナーといった社会常識を身に付けさせるとともに	②事故発生件数 ②傷害状況 ②医療費給付状況	②医療費申請昨年度9件→今年度12件 ②命を守る避難訓練を年3回にし、より実践的に行った。	A		

	<p>事故防止を図る</p> <p>③ 校内美化 ・学習に適した環境づくりを通して、美化意識の高揚に努めるとともに、全員で美しい学校をつくる</p>	<p>③照度およびCO2測定結果</p> <p>③校内安全点検結果</p> <p>③生徒・職員へのアンケート</p>	<p>②体育における準備運動の強化をした。</p> <p>③教室換気の呼びかけができた。</p> <p>③定期的な安全点検・修繕により、より安全な教育環境が整備された。</p> <p>③教室の汚れ落としを徹底し、ワックスがけを実施した。</p>	A	<p>○給食を通してコミュニケーションがとれた。</p> <p>○危機管理意識や防災意識の向上に向けて引き続き注意喚起を行う。</p> <p>○突き指等が減少した。</p> <p>○良好な学習環境の整備ができた。</p>	
渉 外	①生徒の健全育成のため、家庭や地域との連携を深める	①育友会と生徒が一体となって取り組む諸活動 ①安全振興会便りや、家庭向けリーフレットの配布 ①本部役員によるあいさつ運動	①生徒会やボランティアと一体で取り組んだ思索坂清掃、生徒のボランティアと一緒に参加した母親委員会のワークキャンパス祭ボランティア参加など。	A	<p>○「朔陵祭」など、多くの会員の方がボランティアとして参加してくださった。事前打ち合わせ会も今年から実施し、会員同士の情報交流も行われ、有意義な活動となった。</p> <p>○育友会の広報誌が年2回発行され、生徒の生き生きとして活動する姿を会員や地域の方に発信できた。</p> <p>○今年度から育友会総会において、講演会を実施した。保護者からも好評であった。</p> <p>▲保護者の校外進路研修会の参加者が年々減少傾向にある、今後の実施方法や時期、見学先の再考の必要がある。</p>	A
	②学校行事や育友会行事の持ち方を考え、PR活動を積極的に展開する	②朔陵祭バザーや展示企画への参加を通して、保護者同士の連携をはかる	②本部役員、母親委員、一般保護者、役員OBらが一体となり、両日で延べ70名以上の参加があった。また、事前の打ち合わせに一般保護者も参加していただくようにし、PR活動の評価に役立てた。	A		
	③育友会組織の研究を進めるとともに、親子間や保護者間の心の交流が図れる諸活動を積極的に実践する	③年間五回の育友会役員会を通して、育友会活動の展開を協議、実践していく	③本部役員会と母親委員会に分かれていた会議の形態を改め、同時開催にした。より密接な取り組みが可能になった。	A		
	④創立10周年を終え、同窓会の定期総会を開催できるよう進めていく	④3月下旬に同窓会第1回理事会を開催する	④今年度は、土岐北高校の同窓会理事にも理事会の案内を送るなど活動が広がっている。また、情報発信や校誌朔陵への補助など新たな取り組みが始まった。	B		
図書・情報	①図書資料の適切な選定と購入を進め、蔵書構成の充実を図る	①生徒や教職員・各教科のリクエストを迅速に集計・対応	①「図書館だより」（毎月発行）「館報あざみ」（年2回）等を通じての図書啓発活動。内容面の一層の充実を図った。	A	<p>【図書】</p> <p>○年間を通して通信等を利用した啓発活動ができた。</p> <p>○タイムリーな企画展示ができた。</p> <p>▲委員会活動の活性化をはかり、自主的な活動を進める。</p> <p>【情報】</p> <p>○校務用パソコンのAD認証切り替えをスムーズに行えた。</p>	A
	②「図書館だより」発行や館内展示の工夫により、生徒の図書館と読者への興味関心を高める	②生徒や教職員の来館数・貸出冊数の集計、分析を適宜に行う ②校内読書感想文	②新刊・新着図書の紹介・案内 ②企画展示 ②「先生のオススメ本」紹介 ②多読賞の制度化	A		
	③「朔陵祭」参加や芸術鑑賞会を通して芸術や文化に対する豊かな感性を育む	③芸術鑑賞生徒アンケートの結果活用	③図書委員会の活動 ③鑑賞作品のPRと生徒感想による振り返り	B		
	④県および校内LANの円滑な運用と保守・管理を図る	④県および校内LANの利用状況	④PC異常時に、リカバリーを行う等の迅速な対応。	A		

	⑤職員セキュリティ・プライバシー・著作権等に関する意識の向上を図る	⑤毎月のセキュリティ・チェックの実施	⑤毎月セキュリティ・チェックを実施した。 ⑤教育財務課等からの連絡をプリント等で伝達	A	○PC活用セキュリティの意識向上。	
--	-----------------------------------	--------------------	---	---	-------------------	--

**II 学校関係者評価** 実施年月日：平成28年1月15日

- ・中学校までの不登校経験を克服している生徒が多く、先生方の指導の賜だと感じた。
- ・よい意味でも悪い意味でも先生と生徒の距離が近いと感じる。丁寧に授業をしていただいているが、反面、生徒が甘えてしまわないか心配である。
- ・学校のホームページの更新について改善されている。今後は内容についても検討し、更に充実させてほしい。
- ・学校全体の清掃が行き届いており、落ち着いているように感じる。
- ・土岐北高校から東濃フロンティア高校になり、生徒の状況が徐々に良くなっているように思われる。登下校の様子も以前のように目に余ることは少なくなった。バスの乗車の様子も他校の生徒と差はない。
- ・ソーシャルスキルの取組と同時に、授業の中でも生徒同士が交流できるように、机列を円のようにする等の工夫をするとよいのではないかな。
- ・社会人講座について、他校では生徒との合同実施で成果を挙げているようだ。東濃フロンティアでも以前は「情報」や「英語」などで実施していたが、条件が整えば実施してもよいのではないかな。

12 来年度に向けての改善方策案

- (教務) ・基礎基本の定着を目指した授業方法(ユニバーサルデザイン)の研究  
・生涯にわたって学ぶ忍耐力の育成  
・多様化する生徒への個別支援の充実
- (進路) ・個に応じた進路指導のさらなる充実  
・キャリアガイダンスの充実と改善  
・インターンシップ(就職体験)の効果的な実施方法の研究
- (生徒指導) ・ネット犯罪・トラブルの防止と礼儀やマナーの改善(規範意識の高揚)  
・予防的生徒指導の研究と実践(積極的生徒指導への転換)
- (教育相談) ・SCによるカウンセリング利用の周知、保護者への積極的な啓発活動  
・個別の支援計画の有効的活用
- (保健厚生) ・ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた人間関係の構築  
・各種検診の事後処置の徹底  
・非常変災時に各自で速やかに行動できる実践力を高める  
・命を守る訓練を通じた人命尊重の教育
- (渉外) ・PTA活動、同窓会活動の活性化
- (図書・情報) ・生徒・保護者へ図書館の情報を発信し、読書への意識を高める  
・DVDライブラリーや図書館PCの有効活用